

銘柄米生産情報

会津若松市・磐梯町・猪苗代町
 JA会津よつば（あいづ地区）・福島県会津農林事務所農業振興普及部
 福島県農業共済組合会津支所・JA全農福島県本部



育苗管理

<仙台管区气象台 R4.4.6 発表>
 ・東北日本海側では、天気は数日の周期で変わるでしょう。
 ・平均気温は、高い確率60%です。

- ◆例年、苗やけ・ムシ苗が発生しています。ハウスの温度管理には十分に気をつけましょう。
 ・気温は平年より高くなる予報です。ハウス内が30℃以上の高温とならないよう、充分注意してください。
- ◆30℃以上の高温では、もみ枯細菌病が発生しやすくなります。温度管理や薬剤による防除を徹底してください。
- ◆出芽を揃え、均一な充実した苗を育てましょう。
 ・出芽の揃いは、田植え作業や活着、稲の初期生育にも影響します。芽出しを十分に行い、出芽を揃えるように心がけましょう。



- ◆育苗のポイント（出芽期まで）
 ・ハウス内が30℃を超えないようにし、芽の長さが約1cmになったら、被覆資材をはずす。
 ・被覆資材の材質によって遮光性等の特性が異なるので、温度管理には注意する。（表1参照）

表1 主な被覆資材の特徴

被覆資材	特徴
シルバー系フィルム（ミラーシート等）	○ 屋間の温度が過度に上がりにくく、夜間の保温性が良い。 × 遮光率の低いシートは晴天時に「苗ヤケ」が出やすい。
アルミ蒸着シート（本州太陽シート等）	○ 遮光率が高く、温度が上がりにくい。 × 地温を上げる効果が低く、低温時には出芽が遅れやすい。アルミがはげた部分は「苗ヤケ」に注意する。

☆被覆資材を過信せず、晴天時はハウスサイドを開け換気しましょう！

- ◆育苗のポイント（出芽期以降）
 表2 出芽期以降の管理ポイント

種まき	育苗管理期間			田植え
	出芽期	緑化期 (出芽揃い～1葉期)	硬化期 (第1葉期～)	
日数 (目安)	無加温：5～7日 加温：2～3日	2～3日	稚苗：15～20日 中苗：25～30日	
温度管理	無加温：28℃以下 加温：28℃に設定	昼：25℃ 夜：12～15℃	昼：15～20℃ 夜：10～15℃	
注意点	(無加温) ・高温のヤケに注意。 ・低温時は保温に努める。	・出芽後、日光に急に当てない。 ・高温は徒長の原因になるので注意。	・ハウス外の環境に徐々にならず。 ・降霜時など、低温に注意する。 ・プール育苗は苗が伸びやすい。注意！	

- ◆かん水は、朝方に行い、夕方（16時以降）はやめましょう。日中高温になり、乾燥が激しい場合は、加減してかん水してください。
- ◆中苗の場合は、2.5葉期頃に追肥して、苗の老化を防ぎましょう。
追肥例 ①硫安1箱あたり4gを水0.4リットルに溶かしてかん水する。
(追肥後、肥料ヤケを防ぐため、軽く水をかけておきましょう。)
②「メリット青」(またはポリコープ1号): 1箱あたり300倍希釈0.5リットルかん水する。

肥培管理

- ◆有機質資材と土壌改良資材の投入による土づくりを行いましょ。


- ・施用例
 - ① 土壌改良資材+堆肥施用(1t/10a)
 - ② 土壌改良資材+鶏糞堆肥(30kg/10a) など

- ◆基肥は、標準施用量を目安に、ほ場の条件に合わせて施用してください。

表3 品種ごとの標準施用量の目安(窒素成分kg/10a)

品種名	基肥	追肥
コシヒカリ	3~4	1~2
ひとめぼれ(平坦部)	6	1.5~2
ひとめぼれ(山間高冷地)	6~7	2
天のつば	6~8	2
里山のつば	6~8	2

春は機械作業が増えます！
農作業の安全に努めましょう！



~春の農作業安全運動重点推進期間~
4/1~5/31

雑草対策

- ◆発生する草種に有効な成分のある除草剤を選択しましょう。
・毎年、ホタルイ、オモダカ、クログワイが残草しているほ場が多くみられます。昨年までの雑草の発生状況を振り返り、有効な除草成分のある薬剤を準備しましょう。(表4参照)

表4 主な薬剤の例

雑草名	有効成分	効果	農薬名(成分数)
ホタルイ	メソトリオン	白化→枯死	センイチMX1キロ粒剤(3)
	プロモブチド	成長点の枯死	アップレZ1キロ粒剤(3)
オモダカ、クログワイ	テフリルトリオン	生育抑制、白化	ボデーガードプロ1キロ粒剤(2) ボデーガードプロフロアブル(2) キマリテ1キロ粒剤(2)

- ◆水稻の作付品種を切り替えた場合や、前年に雑草イネの発生がみられたほ場では、除草剤の初期剤→初中期一発剤(または中期剤)の体系処理が有効です。

※ 初期剤の例: エリジャン乳剤、ソルネット1キロ粒剤、メテオ1キロ粒剤 等

- ◆除草剤の効果を最大限に生かすため、ほ場の漏水対策をしっかりと行いましょう。
- ◆農薬を使用する際は、農薬登録情報を必ず確認し、使用基準を守ってください。箱処理剤と除草剤を取り違えて使用することのないように、農薬のラベル等をよく読んでから使用しましょう。また、農薬を使用したら、必ず記帳するようにしましょう。